

「生きる希望が湧いてきた」 (ドロ出し終わった住民)
 「もっと早く来て欲しかった」 (期待を込めた要望)
 「被害の凄まじさは強烈」 (ボランティアの感想)



☆ 私の家もお願いと、到着し

ドロ出しへの被災者意見
 ☆ きれいになってきた庭を見て やっとまっすぐ歩けるようになった。最初は途方にくれていたが、家を壊さずに修理と思えるようになった」
 ☆ 一人でコツコツやってきたが、大勢でやると早い。助かった 同様意見多数)。
 ☆ あと何年生きられるかわからないが、生きる希望がわいた。
 ☆ 建て替えカリフォームか、先が少し考えられるようになった。近所の方からも、うちの変化に驚き喜んでくれている。
 ☆ 泥かきに入った隣の家から、うちにも是非来て欲しい、と要望。
 ☆ 本当に助かりました。ありがとう。これならあとは一人でやれる。
 ☆ 助かりました。お礼に宮城で一番おいしいカマボコを送ります。
 ☆ もうあきらめていた。近くの家で共産党がドロ出ししていると聞いて、電話したらすぐ来てくれ、驚き、助かった。

被災者の意見・要望
 ボランティアの感想を紹介します
 その①

た矢先に隣家から要望出る。

ボランティア参加者の感想

☆ もっと早く来て欲しかった 言いながら うちより被害がひどいところへ行ってくれ」の声があった。
 ☆ 炊出しが成功して「安心した。一滴も、一粒も残さず食べていただきホッとした。
 ☆ テレビで見たのと、現実はまだ大きく違っていた。自分の目で見ることで、被害の大きさを肌で実感できた。
 ☆ 来てよかった。他の地域の方と交流できた。
 ☆ 日程に限りがあったため、残念だった。
 ☆ 先の見えない復興活動。継続的な支援がもっと必要だと実感した。
 ☆ 復興は大変なことだ。ボランティア活動は大変だったけど、私自身もがんばってみたいと思った。
 ☆ 現地を見て複雑な気持ち。道一本隔てて運命が分かれることへの不思議な感情。
 ☆ 頑張ろうと言うと、何を頑張れば？」という人がいた。本当だ。この地の様子を見たらそう思う。

南三陸で炊出し

琉球「さんしん」とん汁、もずく天

6月3日、武蔵野市・三鷹市からのボランティアなど14人で、南三陸町・旭が丘に行きました。前夜の雨も上がって明るい青空が広がるもと、とん汁と「もずくの天ぷら」、さらに野菜の配布などを行いました。前日までに大滝町議を通じて、区長さんはじめ地域の皆さんに炊出し実施の案内がされていたこともあって、次々と住民の皆さんが集まってきました。



沖縄出身のボランティアメンバーが、「さんしん」の伴奏に合わせた琉球舞踊を披露し、大きな拍手を浴びるうちに、スムーズに調理が進んで予定より早めに完成。400食近

くのとん汁ともずくの天ぷらを提供しました。津波に被災し、娘さんの家に同居しているというあるお年寄りも、「地震が来るまで、ここは本当に住みやすいところだった。早く元の生活に戻りたい」と話していました。



地域の公民館には、全国から集まってきた支援ボランティアからの激励メッセージが書かれた「幸せの黄色いハンカチ」がひらめいていました。地元の方から「せっかくなのでぜひひとこと」とよびかけられたボランティアが、思い思いのメッセージを真剣な面持ちで記入していました。